

中期目標の達成状況に関する評価結果

千葉大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	
評価結果	
«概要»	19
«本文»	23
«判定結果一覧表»	33

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

千葉大学は、「千葉大学憲章」に掲げた理念を具現化し、使命を達成するために、基本的な目標を以下のとおり定める。

人類の文化の継承と創造の拠点として、自由・自立の精神を堅持しつつ、グローバルな視点から積極的に社会にかかわり、教養と専門的な知識・技能・柔軟な思考力と問題解決能力をそなえた人材の育成、ならびに現代社会の新たなニーズに応える創造性、独創的研究の展開によって、人類の平和と福祉ならびに自然との共生に貢献する。

1. 世界を先導する大規模総合大学として、その多様性と学際性を最大限に生かし、総合的で高度な個性ある教育プログラムと最善の環境を提供することにより、有為な人材を育成する。

自然科学系の学部では、専門的職業人養成の充実を図る。医療系、教員養成系の学部では、目的に沿った人材養成を推進する。文科系の学部では、総合的能力を持った職業人養成を推進する。大学院課程では、高度専門職業人養成を推進するとともに、特に博士課程においては優れた研究者をはじめとする社会を牽引する人材の養成を進める。

2. 世界的な研究拠点を育成し、基礎研究から応用研究までを、自由な発想に基づき重層的に推進して、現代社会のさまざまな問題を解決するとともに、世界・日本・地域の文化と科学の発展に貢献する。

3. 国内外の地域社会、行政、教育研究諸機関あるいは企業等と連携し、国際化した知の発信拠点形成を推進するとともに、社会に積極的に貢献する。

4. つねに、より高きものをめざして、総合大学の多様な構成員が積極的に協働し、自律的に改革する、社会に開かれた大学を構築する。

未来志向型総合大学

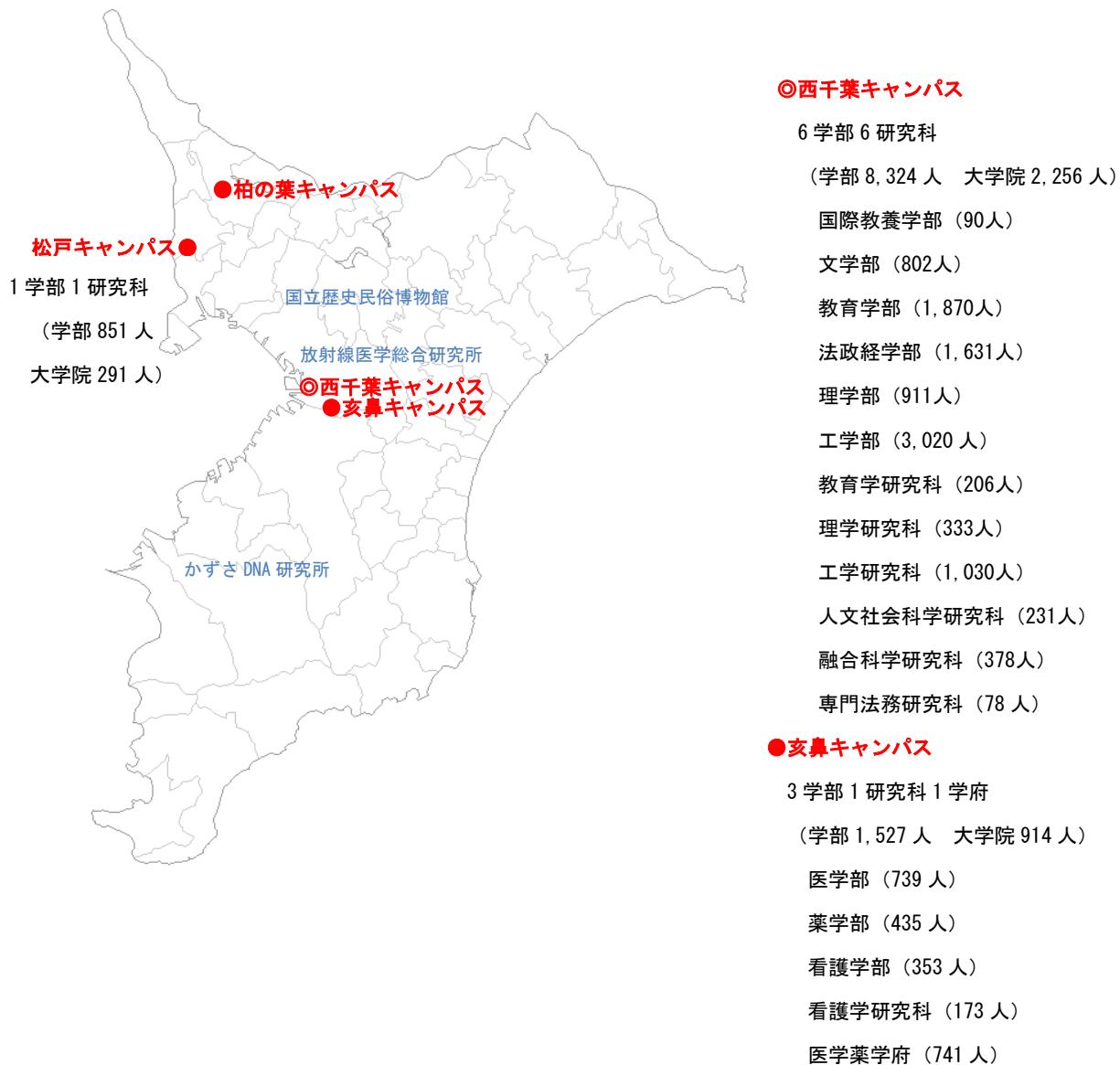
本学は、昭和24年5月、当時千葉県内にあった千葉医科大学、千葉師範学校、東京工業専門学校、千葉農業専門学校等の旧制国立諸学校を包括して新制の国立大学として発足した。

現在は、10学部（平成28年4月「国際教養学部」の新設により10学部）、8研究科、1学府、学生数14,163人、有期雇用を含んだ本務教員数1,367人の、4キャンパス（西千葉、亥鼻、松戸、柏の葉）からなる総合大学となっている。大規模総合大学でありながら、オープンかつ垣根の低い部局間交流を特徴としており、これを強みとして特色ある教育・融合型研究を推進している。また、いずれのキャンパスも交通に便利な東京圏にあり、周辺の国立歴史民俗博物館、かずさDNA研究所、放射線医学総合研究所などの教育研究機関との教育・研究面での連携を図っている（資料1）。

平成17年度に千葉大学憲章において制定した、千葉大学の理念「つねに、より高きものをめざして」の下、平成27年度には「世界水準の教育研究機能を有する未来志向型総合大学」として更なる発展を遂げていくため、本学のビジョンを策定した。強みとなる独創的な研究分野への戦略的支援や、次世代型イノベーションの創出、グローバル社会の中心となって活躍できる次世代型人材の育成などにより、教職員が一丸となってビジョンの実現を目指している（資料2）。

資料1 本学の構成と位置

平成28年5月1日現在



資料2 VISION CHIBA UNIVERSITY 2015-2021

VISION	<p>Global 国際社会で活躍できる次世代型人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none">■国際未来教育基幹の創設による世界水準の教育実践と次世代型人材育成■「グローバル千葉大学の新生」(スーパーグローバル大学等事業)の着実な実施■国際的なネットワークの構築による教育研究拠点の創成 <p>Research 研究三峰(トリプル ピーク チャレンジ)の推進</p> <ul style="list-style-type: none">■グローバルプロミネント研究基幹の創設による独創的な次世代研究への戦略的支援■亥鼻キャンパス高機能化構想による治療学創成に向けた未来医療研究拠点形成■文理の枠を超えた融合型研究の推進 <p>Innovation 次世代を担うイノベーションの創出</p> <ul style="list-style-type: none">■イノベーションの創出に向けた産業連携研究の推進・強化■研究成果の社会実装へ向けた知的財産の確保と活用■イノベーション創出人材の育成と組織改革 <p>Branding 千葉大学ブランディングの強化</p> <ul style="list-style-type: none">■卓越した教育・研究力による国際的な信頼の向上■戦略的広報活動の推進■卒業生・企業・社会等との連携強化 <p>Synergy 教職員による協働体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none">■戦略的な大学運営に向けたガバナンス機能の強化■多様な人材(ダイバーシティ)の活用による教育研究活動の活性化■リスクマネジメントシステムの充実
--------	--

(出典：千葉大学ウェブサイト)

【個性の伸長に向けた取組】

1. 研究

第2期の中期目標に掲げる「特色ある分野における国際的に魅力ある卓越した研究拠点形成」を目指した研究支援（強化）事業として、平成21年度から「千葉大学COEスタートアッププログラム」、平成23年度から「千葉大学COEプログラム」を実施し、全学的な支援の下に各研究科（研究院）等において中核的研究拠点の整備を図るなど、学術研究の動向に即して、先駆的・学際的なプロジェクト研究の遂行を支援する各種取組を実施した。

平成27年度からは、本学が策定した「VISION 2015-2021」、「TOKUHISA PLAN 2015-2021」に基づく、学長のガバナンスによる「研究マネジメント改革」として、それまでの取組から得られた成果等について、「千葉大学の研究力分析（研究IR）」により本学の強み・特徴を示す研究分野の分析を行い、研究推進事業を組織的・戦略的に展開することにより、持続的な競争力を有し、高い付加価値を生む研究面の「核」の確立、次世代の重点研究分野の創出と多様性の確保、全学的な研究の裾野の拡大と底上げ、研究リーダーの育成等を推進した。

具体的には、第2期中期目標期間（以下、本期間）に全学的な支援の下、各研究科（研究院）等において整備した研究拠点（研究グループ）等のうち、学長のトップダウンにより、「戦略的重點研究強化プログラム」として6つの研究プロジェクトを選定し、本学の持続的な競争力や高い付加価値を生み出す研究面の「核」となる「国際的卓越研究拠点」の形成を目的として重点支援を行った（資料3）。

また、研究型総合大学を志向する本学の強み・特徴の強化と多様性を確保するとともに、近い将来における本学の研究面の「核」となり得る次世代の研究グループを育成するため、新たな研究推進事業として開始した「リーディング研究育成プログラム」において、4つの研究プロジェクトを選定し、研究の充実と拡充に資する支援を行った。

これらの支援対象は、学長のリーダーシップの下、「人文社会科学系、理工学系及び生命科学系」の3分野における世界レベルの研究（研究三峰）の推進と、「次世代を担うイノベーションの創出」を強力に推進するため、本学の研究の「核」となる新規性・独創性を備えた多様で発展性のある研究群を長期間にわたり継続的に創出するシステム『グローバルプロミネント研究基幹』（平成28年4月設置：第3期中期目標期間（以下、次期間）の「戦略性が高く、意欲的な目標・計画」に認定された「グローバルプロミネント研究基幹による独創的な次世代研究の創出と戦略的推進」の取組）の全学的な研究戦略による推進・支援体制の下、「研究の加速」「国際共同研究の推進」「国内外研究ネットワークの構築」などによる、更なる研究基盤等の強化と拡大を図ることとしている。

資料3 戰略的重点研究強化プログラム



プログラム名称	推進責任者
国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究拠点形成事業	中山 俊憲 教授(医学研究院)
世界最高感度のニュートリノ観測と数値シミュレーションで切り拓く高エネルギー ハドロン宇宙国際研究拠点形成	吉田 滋 教授(理学研究科)
キラルな光で拓く革新的物質科学	尾松 孝茂 教授(融合科学研究科)
ファイトケミカル植物分子科学	齊藤 和季 教授(薬学研究院)
マルチモーダル計測医工学	羽石 秀昭 教授 (フロンティア医工学センター)
先端マイクロ波リモートセンシング拠点形成	達石 隆太郎 教授 (環境リモートセンシング研究センター)

(出典：千葉大学ウェブサイト)

(関連する中期計画) 計画2-1-1-1 (No.37)、計画2-2-1-1 (No.41)

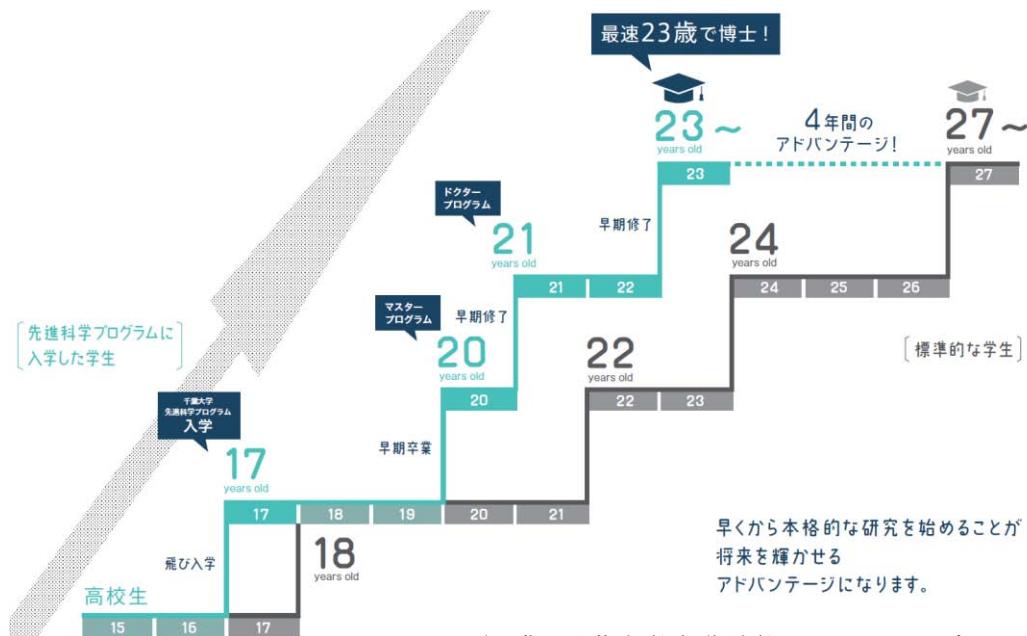
2. 教育

(1) 飛び入学

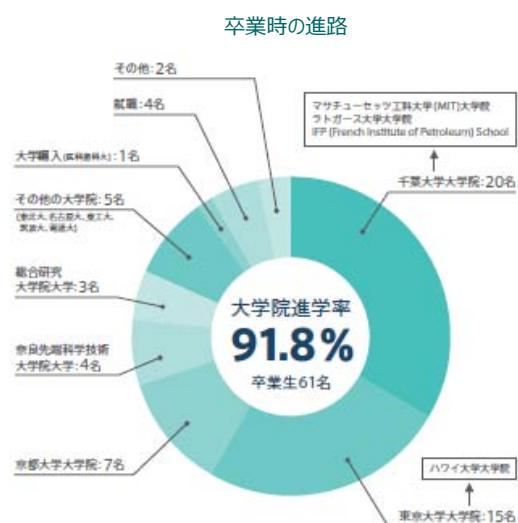
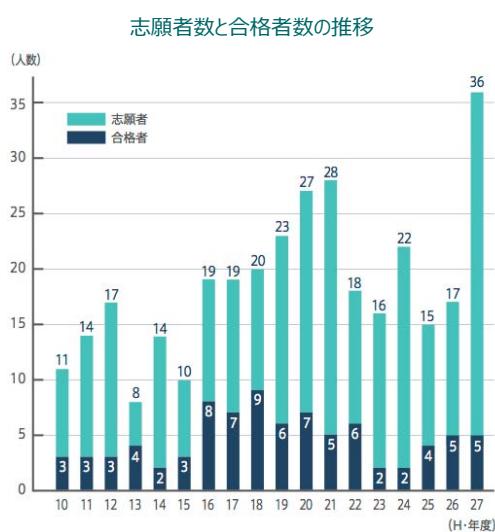
全国に先駆けて平成10年度から飛び入学制度を導入し、高校2年生を修了した者を対象として独自のプログラムである「先進科学プログラム」を開始し、これまでに300人を超える志願者があり、そのうち77人が入学し、61人が卒業した。独創的な研究を通して世界に貢献する広い視野と柔軟な思考力を備えた個性的な人材を育成することを目的と

して、特定の分野において優れた能力や資質をもつ若者に早期から特色ある大学教育を提供し、最短23歳での博士取得を可能としている（資料4、5）。

資料4 先進科学プログラムの概要



資料5 先進科学プログラムの歩み



(出典：千葉大学先進科学センターウェブサイト)

(関連する中期計画) 計画 1－1－4－3 (No.17)

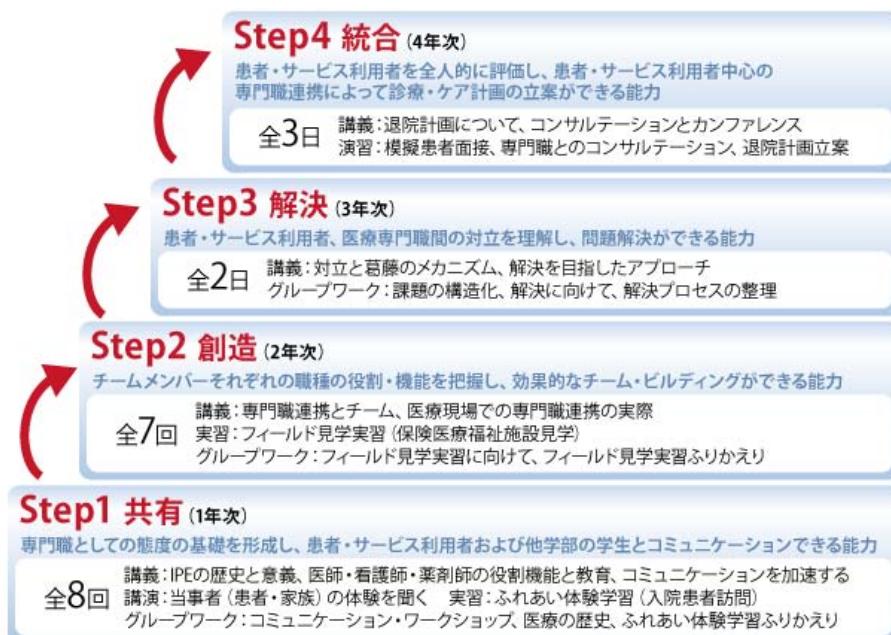
(2) 次世代対応型医療人育成

国立大学唯一の医療系3学部（医学・薬学・看護学）と附属病院が結集する亥鼻キャンパスにおいて、次世代対応型医療人の育成に取り組んでいる。

なお、「次世代対応型医療人育成と『治療学』拠点創成のための亥鼻キャンパス高機能化構想」事業（平成25年度国立大学改革強化推進補助金）は、平成25事業年度法人評価において「戦略性が高く、意欲的な目標・計画」として認定された。

学士課程においては、医療の場では患者中心のチーム医療が不可欠という観点から、平成17年度から医学部・薬学部・看護学部の3学部による専門職連携教育「亥鼻IPE」を実施している（資料6）。

資料6 亥鼻IPE プログラムの構成



（出典：千葉大学看護学研究科附属専門職連携教育研究センターウェブサイト）

博士課程においては、「免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム」（資料7）及び「災害看護グローバルリーダー養成プログラム」（資料8）が「平成24年度博士課程教育リーディングプログラム」に採択された。

前者は、医学薬学府及び産学官との連携により、グローバル社会で活躍する難治性の免疫関連疾患に特化した「治療学」の実践的な推進リーダー養成に向けた取組を実施している。

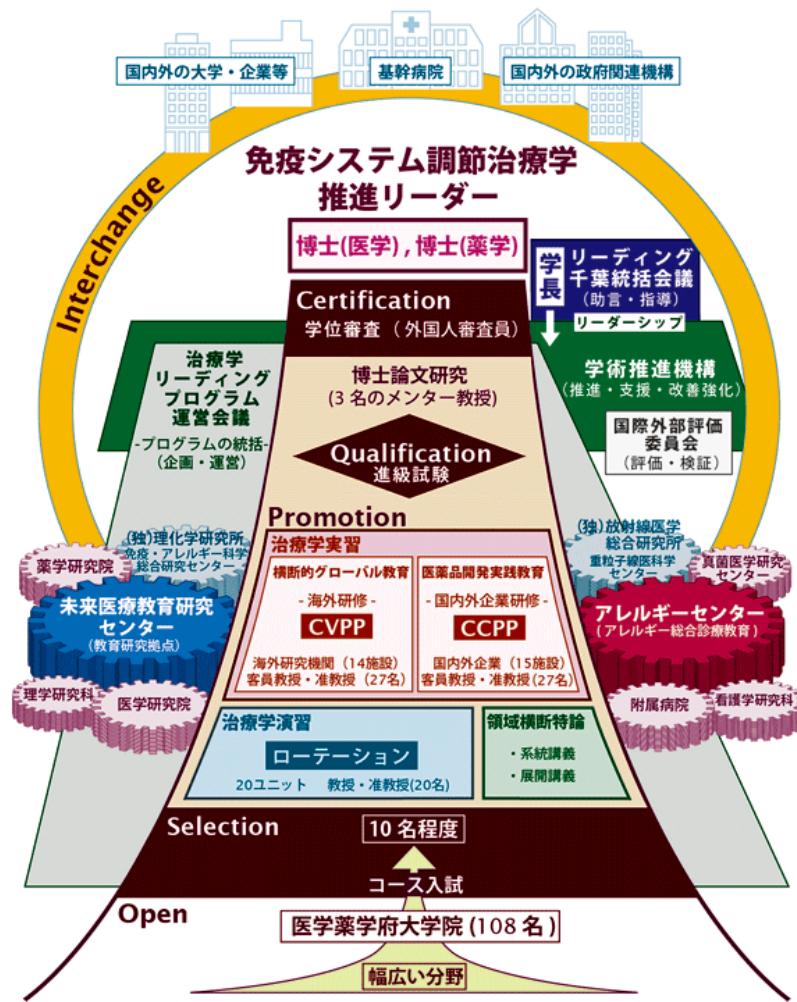
後者は、我が国初の国公私立5大学（高知県立大学、兵庫県立大学、東京医科歯科大学、千葉大学、日本赤十字看護大学）連携による5年一貫制博士課程共同災害看護学専攻を平成26年度に設置し、専門職教育プログラムを実施している。

さらに、平成24事業年度法人評価において「戦略性が高く、意欲的な目標・計画」に認定された「真の疾患予防を目指したスーパー予防医科学に関する3大学（千葉・金沢・長崎）革新予防医科学共同大学院の設置」事業（平成24年度国立大学改革強化推進補助

金)に基づき、共同で革新的予防医学の発展に向けた人材育成を行い、平成28年度には3大学による先進予防医学共同大学院を設置することが決定している(資料9)。

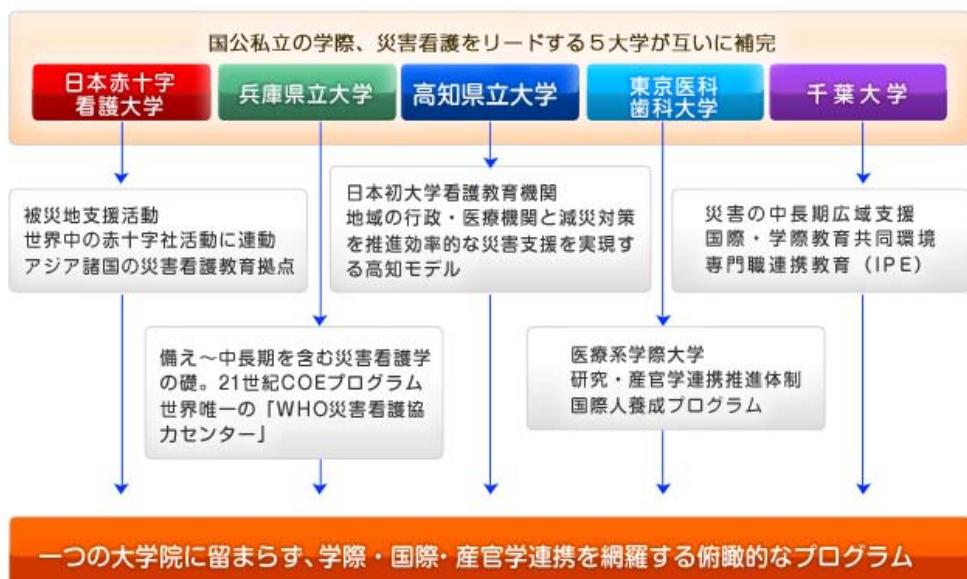
なお、次期間の「戦略性が高く、意欲的な目標・計画」に認定された「指導的立場に立つグローバル人材を育成する卓越した大学院の形成」は、これら博士課程における取組を発展させたものである。

資料7 免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム



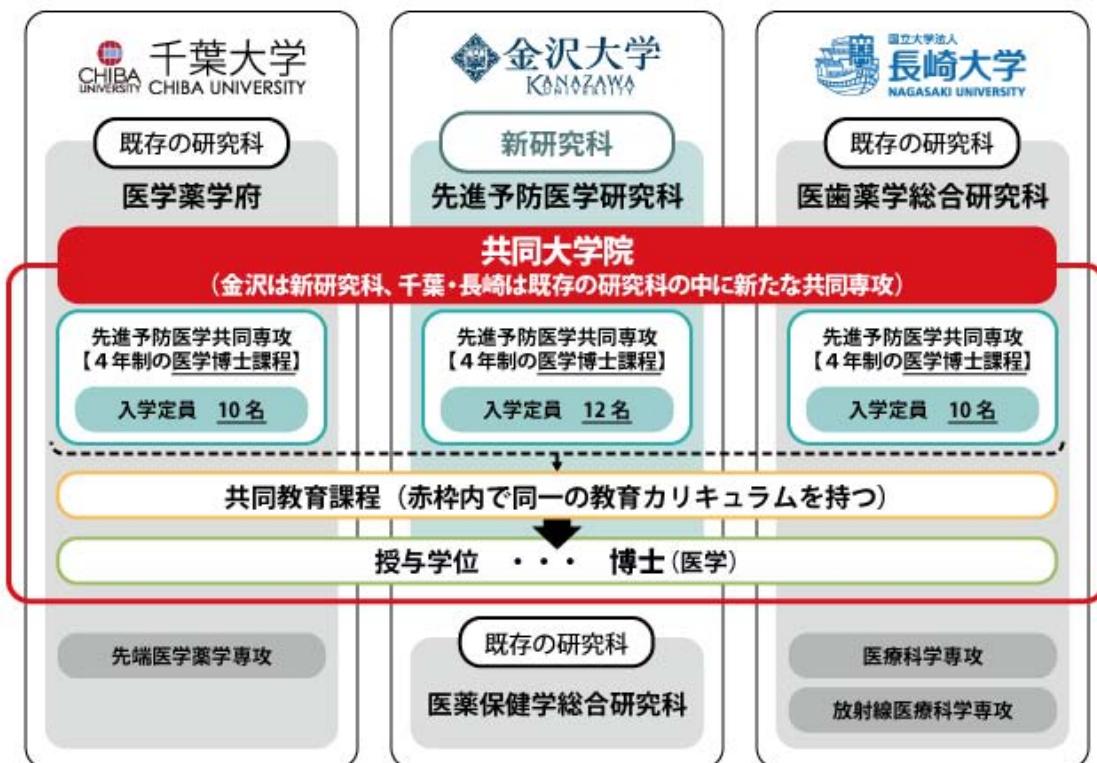
(出典:千葉大学免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラムウェブサイト)

資料8 災害看護グローバルリーダー養成プログラム



(出典：千葉大学災害看護グローバルリーダー養成プログラムウェブサイト)

資料9 3大学による先進予防医学共同大学院



(出典: 千葉大学・金沢大学・長崎大学革新予防医科学共同教育研究センターウェブサイト)

(関連する中期計画) 計画 1—1—3—5 (No.14)

(3) 考える学生の創造－アカデミック・リンク－

考える学生「学習とコンテンツ（学習のための多様な資料群）の近接による能動的学習」を実現する取組であり、平成23年度から開始し、平成23事業年度法人評価において「戦略性が高く、意欲的な目標・計画」として認定された。

「アカデミック・リンク」の拠点であるアカデミック・リンク・センターは、空間・人的サポート・コンテンツの統合的な提供を通じたアクティブ・ラーニングの促進をコンセプトとし、「アクティブ・ラーニング・スペース」「ティーチング・ハブ」「コンテンツ・ラボ」の諸面から様々な学習支援活動を展開している（資料10）。

これらの実績から、平成27年度に教育関係共同利用拠点「教職員の組織的な研修等の共同利用拠点（教育・学修支援専門職養成）」に認定されている。

資料 10 アカデミック・リンク

“考える学生”を 創造するための3つの機能



(出典：千葉大学案内2015-2016)

(関連する中期計画) 計画 1－1－5－1 (No.19)

(4) グローバル千葉大学の新生 —Rising Chiba University—

国際社会で活躍できる次世代型人材の育成のため、グローバル化教育を強化しており、学生の海外派遣数は、平成23年度から国立大学において4年連続第1位を誇っている（計画 1－3－1－3 (No.30) 66頁参照）。

これら取組の成果を基にした「グローバル千葉大学の新生—Rising Chiba University

ー」構想は、平成26年度に「スーパーグローバル大学創成支援（タイプB：グローバル化牽引型）」に採択され、ガバナンス強化、学修制度の改革、プログラム改革、グローバル・ネットワーク改革を通じて、「俯瞰力」、「発見力」、「実践力」を身に付けた「人間力」のあるグローバル人材の育成を目指している（資料11）。

なお、本構想は、平成26年事業年度法人評価において「戦略性が高く、意欲的な目標・計画」として認定され、次期間においても引き続き認定されている。

資料11 グローバル千葉大学の新生

◎ グローバル千葉大学で育成する人材像

◆人間力のある人材の育成＝俯瞰+発見+実践

様々な事象を「俯瞰」し、そこからの新たな「発見」をもとに、エキスパートとして「実践」する人材

〔俯瞰〕新たな学問体系をもつ教養教育で俯瞰力を身に付ける
〔発見〕共同教育により新たな発見ができる能力を身に付ける
〔実践〕文理生命科学融合の教育で実践力のある人材となる

◎ 10年後 2024年の新たな大学の「組織」を描く

4つのレベル（ガバナンス、学修制度、プログラム、グローバル・ネットワーク）の改革による新生

◆ガバナンス改革による新生

 “新”教養学部の設置、共学教育の拠点形成、全学教育運営支援組織の構築+SULA^(※)、教職員機能の充実強化
(※) Super University Learning Administrator

◆学修制度の改革による新生

 飛び入学の拡大、多様な入試の実施、学事暦の見直し、学内教育制度の国際標準化

◆プログラム改革による新生

 「ダブルメジャー制度」によるイノベーション人材育成（「TOKUHISA SCHOOL」）、留学のための「国際教養学プログラム」設置、国際日本学の必修化、セメスター派遣・受入プログラム、大学院ダブルメジャー・メジャーマイナー・プログラム

◆グローバル・ネットワーク改革による新生

 海外キャンパスの設置、アライアンス交流の推進

◎ 大学独自の数値目標

－ 753（シチゴサン）+1（タスイチ）計画 －

「7」－ 700科目の英語での授業を実施
「5」－ 50% 入学定員の半分（1,200人）が留学
「3」－ 3,000人の外国人留学生を受入
「1」－ 10% 入学定員の10%（240人）を多様な入試で受入



（出典：Chiba University financial Report 2014）

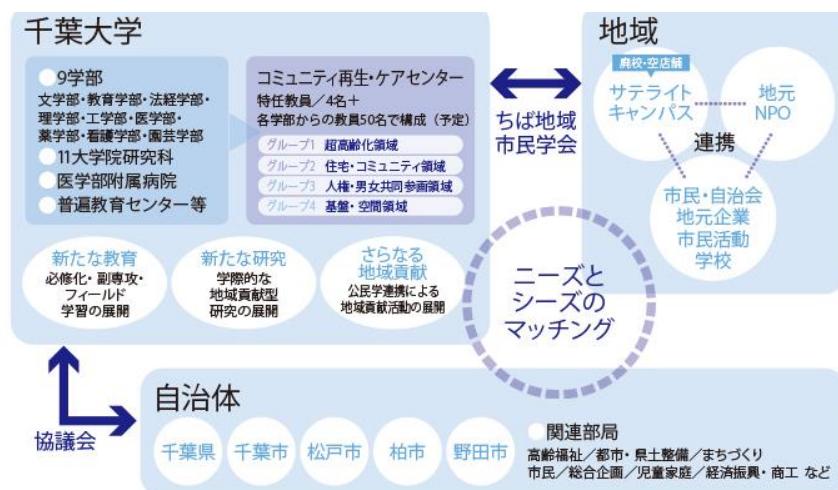
（関連する中期計画） 計画1-3-1-3（No.30）、計画3-3-1-2（No.49）、
計画3-3-2-1（No.50-2）

(5) 社会連携・社会貢献

「クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学」は、「平成 25 年度（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」に採択され、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進めるとともに、全学共通プログラムにより地域に貢献する拠点づくりを担う人材を育成している（資料 12）。

これらの実績を活かし、平成 27 年度には「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に「都市と世界をつなぐ千葉地方圏の“しごと”づくり人材育成事業」が採択され、大学 COC 事業の対象が千葉都市圏（千葉市、松戸市、柏市）であったのに対し、本事業はその他の県内地域を千葉地方圏と位置付け、近隣大学、自治体、企業等が協働し、若者が地域に定着するための教育プログラム「地域産業イノベーション学」を開発し、魅力ある職づくりの開拓を進めている（資料 13）。

資料 12 クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学



（出典：クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学ウェブサイト）

資料 13 都市と世界をつなぐ千葉地方圏の“しごと”づくり人材育成事業



(出典：千葉大学ニュースリリース)

(関連する中期計画) 計画 1—1—1—1 (No. 1)

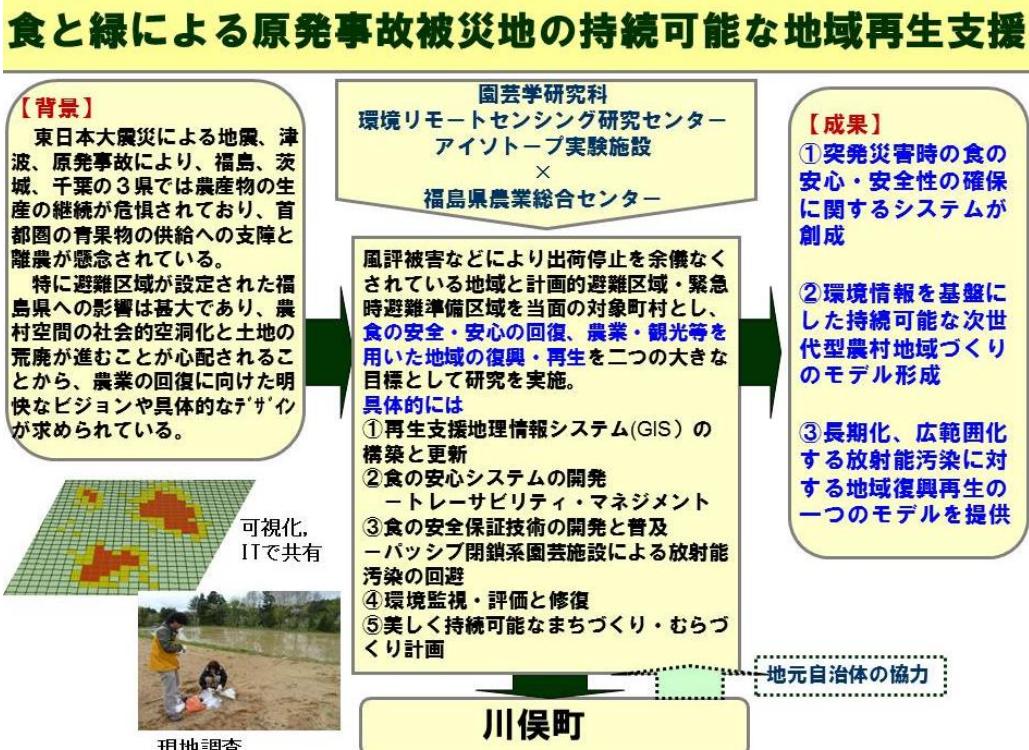
【東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等】

(1) 大学の知による支援

園芸学研究科では、放射性環境の分析、GIS (Geographic Information System：地理情報システム) による情報共有、園芸・緑地の知識や技術による安全な生活環境や農業環境の実現などを通して、食の信頼を回復させ、持続可能な地域の再生を支援している。平成23年度には福島県、川俣町と共同し、安全な農産物の供給や川俣町内の計画的避難区域の汚染状況に関する調査研究を行った（資料14）。

工学研究科では、汚染水処理用に吸着纖維を開発し、福島第一原子力発電所の汚染水処理に正式採用され、大量生産されている。また、平成26年度からは、原子炉建屋内部を無人の小型ヘリコプター（ドローン）を使って探査する国プロジェクトに取り組んでいる。

資料14 食と緑による原発事故被災地の持続可能な地域再生支援



(出典:福島支援チーム千葉大・千葉大学ウェブサイト)

以上のような直接的な支援のほか、工学研究科では、東日本大震災の建物被害に関する調査研究の建築学会への発表、看護学研究科では、東日本大震災被災地での調査に基づく災害時の保健活動基盤構築における課題及び今後の方策に関する自治体への提言を行う等、間接的な支援を行った。

(2) 医療支援・学生支援

医療支援として、震災発生後、直ちに、医学部附属病院が保有する DMAT (Disaster Medical Assistance Team : 災害派遣医療チーム) 3班すべてに加え、医療救護班7班を被災地に派遣した。その後も国立大学附属病院長会議常置委員長校として医療支援を牽引し、平成28年3月末までに、延べ224人を派遣した（資料15）。

資料15 被災地への医師等派遣状況（DMATを含む）

平成28年3月31日現在

大学病院名	チーム数	医師(人)	看護師(人)	その他(人)	合計(人)
千葉大学 医学部附属病院	99	125	51	48	224

(出典：文部科学省調査「被災地への医師等派遣状況」を基に企画政策課にて作成)

この中には、警察庁からの検案支援要請を受けた日本法医学会の東北3県の検案作業において、延べ351体の御遺体の検案と多くの身元確認作業を行った医師ら9人、災害から5カ月経過した状態における被災地の学校（PTSD障害に悩む児童生徒に対する心のケア）への支援を8カ月にわたり行った臨床心理士ら4人も含まれる。

また、学生支援として、被災学生の不安（経済的困難、就職、心身不調）に対応するための相談窓口をWeb上で公表し、被災学生に対して、直ちに入学料・授業料の免除を行うとともに、千葉大学SEEDS基金により36人に対して、9,150千円の支援金給付等の経済的支援を行った。なお、入学料・授業料の免除については、平成24年度以降も継続して行い、本期間を通じて、774人に対して、203,531千円の経済的支援を行った（資料16）。

資料16 被災学生に対する経済的支援

区分	入学料・授業料免除						SEEDS基金による給付 人 千円	
	入学料		授業料		計			
	人	千円	人	千円	人	千円		
23年度	37	10,434	245	65,240	282	75,674	36 9,150	
24年度	26	7,332	128	34,269	154	41,601		
25年度	19	5,358	99	26,358	118	31,716		
26年度	15	2,115	104	28,375	119	30,490		
27年度	14	1,974	87	22,076	101	24,050		
計	111	27,213	663	176,318	774	203,531	36 9,150	

(出典：企画政策課にて作成)

(3) 学生主体のボランティア活動

平成23年3月に「ボランティア活動支援センター」を速やかに設置し、毎年度夏季休業中に行っているボランティアツアーやに関する企画、情報の収集・提供、活動用品の貸与・支給等の各種支援を継続的に行っており（資料17）。

資料17 ボランティアツアーア

区分	期間	派遣先	内容	派遣者(人)	
				学生	教職員
第1回	平成23年8月4日～7日	宮城県気仙沼市	瓦礫撤去等	31	7
第2回	平成23年9月22日～25日	宮城県南三陸町	瓦礫撤去等	24	10
第3回	平成24年8月30日～9月2日	宮城県南三陸町	瓦礫撤去等	99	20
第4回	平成25年9月26日～29日	福島県南相馬市	宅地清掃等	32	11
第5回	平成26年9月10日～13日	福島県南相馬市	竹林伐採等	32	11
第6回	平成27年9月10日～13日	福島県南相馬市	家屋清掃等	28	8
計				246	67

(出典:千葉大学ボランティア活動支援センター&ふれあいの輪ウェブサイトを基に、企画政策課にて作成)

平成24年度には、環境ISO学生委員会が中心となり、大学内の放置自転車等を整備して被害の多かった地域へ届けるプロジェクトや仮設住宅及び浸水エリアの緑化活動を行った。また、園芸学部では、福島県富岡小中学校に「植物工場」を設置し、放射線汚染のない野菜の栽培によって理科教育、食育教育を支援した。

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、千葉大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
(I) 教育に関する目標	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好		1	4	
	おおむね良好		1	2	
	良好		2	1	
(II) 研究に関する目標	良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	良好		1		
	良好		1		
(III) その他の目標	良好				
① 地域を志向した教育・研究に関する目標	良好		1		
	良好		1		
	良好		2		

<主な特記すべき点>

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている取組

- 平成 26 年度の文部科学省スーパーグローバル大学創成支援の採択により、千葉大学が参画している国立六大学連携コンソーシアム国際連携機構では ASEAN 大学ネットワーク（AUN）と包括交流協定を締結し、大学連合間で交流している。さらに、日本人学生と留学生の共同学習プログラム「グローバル・スタディ・プログラム」として新たに 2 つのプログラムを開発するなどの取組により、日本学生支援機構の協定等に基づく日本人学生留学状況調査において、学生海外派遣数は、全国の国立大学の中で平成 23 年度から 4 年連続 1 位となっている。（中期計画 3-3-2-1）

個性の伸長に向けた取組

- 平成 24 年度の文部科学省グローバル人材育成推進事業にスキップワイズ・プログラム、平成 26 年度のスーパーグローバル大学創成支援にグローバル千葉大学の新生－Rising Chiba University－が採択されている。その一環として学部を超えた横断型の教育プログラム「国際日本学」において、留学までのロードマップを提示するとともに、海外経験のない学生を対象に、英語のスピーキング力の向上と文化体験を組み合わせた BOOT プログラムや協定校の学生と英語で議論しながら課題解決法を提案するグローバル・スタディ・プログラム等、複数の海外派遣プログラムを実施している。これらの取組により、日本学生支援機構の協定等に基づく日本人学生留学状況調査において、学生海外派遣数は、全国の国立大学の中で平成 23 年度から 4 年連続 1 位となっている。
(中期計画 1-3-1-3)
- 平成 20 年度に文部科学省のグローバル COE プログラムに 2 拠点が採択され、全学的支援の下、発展させている。医学分野の「免疫システム統御治療学の国際教育研究拠点」では、がんの免疫細胞治療の高度先進医療としての承認等により、平成 24 年度に文部科学省の博士課程教育リーディングプログラム及び国立大学改革強化推進事業に採択されている。また、物理学分野の「有機エレクトロニクス高度化スクール」では、光のキラリティーを用いた有機物質の制御による可能性を示すなどの実績により、平成 27 年度に融合科学研究科附属分子キラリティー研究センターを設置している。そのほか、第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）に高エネルギー宇宙ニュートリノの世界初の検出に成功したハドロン宇宙科学分野等においても世界トップクラスの研究拠点形成を目指している。（中期計画 2-1-1-1）
- 国際的に優れた先駆的・学際的プロジェクトを推進するため、千葉大学 COE スタートアッププログラム、千葉大学次世代研究育成プログラム、千葉大学 COE プログラム等の学内研究支援事業により、若手の研究者及びグループを支援している。これらの事業を検証し、平成 27 年度から大学の強み・特色となる分野の研究力を強化し、国際的卓越拠

点形成を目的とする戦略的重点研究強化プログラム、次世代の研究の核となるグループを育成するリーディング研究育成プログラムに移行することにより、ハドロン宇宙科学分野等の国際的な研究グループやキラリティー物質科学分野等の複数の研究科を横断した学際的研究グループが創成されている。これらの取組により、高エネルギー宇宙ニュートリノの世界初の検出に成功するなどの成果がある。（中期計画 2-2-1-1）

＜復旧・復興への貢献・支援活動等に関する顕著な取組＞

○ 大学の知による支援

園芸学研究科では、放射性環境の分析、GIS（Geographic Information System：地理情報システム）による情報共有、園芸・緑地の知識や技術による安全な生活環境や農業環境の実現などを通じて、食の信頼を回復させ、持続可能な地域の再生を支援している。平成 23 年度には福島県、川俣町と共同し、安全な農産物の供給や川俣町内の計画的避難区域の汚染状況に関する調査研究を行った。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。

《本文》

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、1項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「おおむね良好」と判定した4項目のうち1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

<特記すべき点>

(優れた点)

○学部を超えた横断型の教育プログラムの構築

中期目標（小項目）「学士課程教育においては、自己を知り、他人を思いやる心を持ち、問題の本質に迫ることのできる人材、グローバルな視野を持ち世界をリードする人材、サステイナブル社会形成に貢献できる人材の育成を目指す。」について、文部科学省のスーパー全球大学創成支援や大学の世界展開力強化事業等に6件のプログラムが採択されており、このうちスキップワイズ・プログラムでは、学部を超えた横断型の教育プログラム「国際日本学」を構築し、外国語と外国文化への理解の涵養と外国語コミュニケーション能力を養成する機会を設けている。これらの取組により、日本学生支援機構の協定等に基づく日本学生留学状況調査において、学生海外派遣数は、全国の国立大学の中で平成23年度から4年連続1位となっている。（中期計画1-1-1-4）

○医学部におけるカリキュラム編成の見直し

医学部において、学習成果基盤型教育（OBE）の導入により、パフォーマンス・レベルの設定に伴うカリキュラム編成の見直しと、科目的ナンバリング導入及びカリキュラム・ツリーの作成を行っている。また、学習成果の評価方法の改善として、web-based test、e-portfolio の導入を行い、到達目標を達成するための学習支援ではシミュレーション教育の拡充を行っている。（現況分析結果）

○医学部におけるコミュニケーション能力の向上への取組

医学部において、6年一貫医学英語教育の導入や、専門職連携教育（IPE）等によるプロフェッショナリズム教育の拡充により、コミュニケーション能力の向上に取り組んでいる。（現況分析結果）

（特色ある点）

○飛び入学制度における選抜方法の工夫

中期目標（小項目）「入学に際して習得しておくべき内容・水準等を含む入学者受入れの方針を関係者に対して明確に示し、これに相応しい入学者選抜方法に改善することにより、意欲的で多様な人材を受入れる。」について、飛び入学制度（先進科学プログラム）では、特定の分野において優れた能力や資質を持つ者を選抜するため、面接や課題論述に試験時間をかけ、受験者の適性を的確に把握できるよう選抜方法を工夫している。また、秋飛び入学、秋入学を実施するとともに、早期卒業導入の学部を2学部から5学部に増加している。さらに、平成26年度に文部科学省の大学教育再生加速プログラムに採択された「次世代スキップアップ・プログラム」において、県内の高等学校・教育委員会とコンソーシアムを構築し、高校生を対象に早期から高度な科学体験・教育を実施することにより、大学のグローバルな教育・研究拠点としての機能向上を目指している。

（中期計画 1-1-4-3）

○アカデミック・リンク・センターの設置

中期目標（小項目）「学生が能動的に参加する授業を充実させるとともに、情報化技術を応用した教育方法の開発と充実を目指す。」について、平成23年度にアカデミック・リンク・センターを設置し、議論や発表のできる空間のアクティブ・ラーニング・スペース、学生の学びへの人的サポートのティーチング・ハブ、紙や電子媒体による教材のコンテンツ・ラボを整備することにより、すべての学部・研究科（学府）でアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実施している。これらの取組により、学生アンケートでは、1日の授業外学習時間が3時間以上と答えた学生が平成20年度の7.2%から平成24年度の11.6%へ増加している。また、セミナーやファカルティ・ディベロップメント（FD）等の実績により、アカ

デミック・リンク・センターは平成 27 年度に文部科学省の教育関係共同利用拠点に認定されている。（中期計画 1-1-5-1）

（2）教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○グローバル化推進環境の整備

中期目標（小項目）「教育環境を整備、充実し、教育の効果を高めるとともに、快適な学習環境の実現を目指す。また、多様な学生のニーズに配慮し、学生生活におけるアメニティの充実を目指す。」について、グローバル化の推進、学生支援機能の強化のため、平成 24 年度に総合学生支援センターにイングリッシュ・ハウスを設置しており、英語のネイティブスピーカー教員とスチューデント・アシスタントが常駐し、各種イベントを開催している。施設利用者は平成 25 年度の約 1 万名から平成 27 年度の約 3 万名へ増加している。また、留学生との交流も含めたグローバルな共同学習の場としてグローバル・アクティブ・ラーニングスペースを整備している。（中期計画 1-2-2-2）

○全学的教育改革方針の策定

中期目標（小項目）「カリキュラムや教育方法の改善、教員の職能開発を推進し、教育の継続的改善を目指す。」について、学長のリーダーシップの下、全学的な教育改革を推進するため、重点的事項を掲げた千葉大学の教育改革の方針 2013 を策定し、全学の点検・評価の実施組織として運営基盤機構大学評価部門を、教学マネジメントを確立することを目的として高等研究教育機構を設置し、全学的教育活動の PDCA サイクルを構築している。（中期計画 1-2-3-2）

(3) 学生への支援に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○学生の海外派遣の推進

中期目標（小項目）「学生の修学、生活、進路等に関わる相談、支援をきめ細かに実施できる体制を整え、健やかで豊かな学生生活の実現を目指す。」について、平成24年度の文部科学省グローバル人材育成推進事業にスキップワイズ・プログラム、平成26年度のスーパーグローバル大学創成支援にグローバル千葉大学の新生ーRising Chiba Universityーが採択されている。その一環として学部を超えた横断型の教育プログラム「国際日本学」において、留学までのロードマップを提示するとともに、海外経験のない学生を対象に、英語のスピーキング力の向上と文化体験を組み合わせた BOOT プログラムや協定校の学生と英語で議論しながら課題解決法を提案するグローバル・スタディ・プログラム等、複数の海外派遣プログラムを実施している。これらの取組により、日本学生支援機構の協定等に基づく日本人学生留学状況調査において、学生海外派遣数は、全国の国立大学の中で平成23年度から4年連続1位となっている。（中期計画1-3-1-3）

○学生主体による環境活動の推進

中期目標（小項目）「学業と実践との調和ある教育により、学生の高い就業意識を育成するとともに、就職相談、就職指導等の支援を推進し、学生の主体的な進路選択によるキャリア設計を目指す。」について、環境 ISO 学生委員会の主体的活動により、環境マネジメントシステム（ISO14001）及びエネルギー・マネジメントシステム（ISO50001）の認証を取得しており、これらの活動を教養展開科目群の千葉大学の環境をつくるのうち、企業や官公庁へのインターンシップを含む「環境マネジメントシステム実習1～3」として単位化することにより、学生主体の活動を支援している。（中期計画1-3-2-2）

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標（2項目）のすべてが「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○卓越した研究拠点形成の推進

中期目標（小項目）「基礎並びに応用研究の推進強化を行い、国際的に高く評価される成果を生み出すとともに、国内外において牽引役としての役割を果たす。特色ある分野においては、国際的に魅力ある卓越した研究拠点形成を目指す。また、得られた研究成果を体系的に国内外に発信し、成果の社会還元を積極的に行う。」について、平成20年度に文部科学省のグローバルCOEプログラムに2拠点が採択され、全学的支援の下、発展させている。医学分野の「免疫システム統御治療学の国際教育研究拠点」では、がんの免疫細胞治療の高度先進医療としての承認等により、平成24年度に文部科学省の博士課程教育リーディングプログラム及び国立大学改革強化推進事業に採択されている。また、物理学分野の「有機エレクトロニクス高度化スクール」では、光のキラリティーを用いた有機物質の制御による可能性を示すなどの実績により、平成27年度に融合科学研究科附属分子キラリティー研究センターを設置している。そのほか、第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に高エネルギー宇宙ニュートリノの世界初の検出に成功したハドロン宇宙科学分野等においても世界トップクラスの研究拠点形成を目指している。（中期計画2-1-1-1）

○理学部・理学研究科における研究成果による各賞の受賞

理学部・理学研究科において、解析学基礎の「C*環への群作用の分類理論の研究」では、日本数学会解析学賞及び作用素環賞を受賞している。（現況分析結果）

○理学部・理学研究科における研究成果による各賞の受賞

理学部・理学研究科において、素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理の「宇宙ニュートリノの発見と超高エネルギー宇宙の起源」では、最高エネルギーニュートリノの世界初の観測に成功し、戸塚賞を受賞している。（現況分析結果）

○理学部・理学研究科における研究の推進

理学部・理学研究科において、機能生物化学の「筋原線維のアクチン線維形成の分子機構の解明」では、筋原線維のアクチン線維が作られる分子的な機構を初めて解明し、社会的にインパクトが大きい成果をあげている。（現況分析結果）

○看護学部・看護学研究科における若手研究者による研究の推進

看護学部・看護学研究科において、発表論文数は、平成 22 年度の 560 件から平成 27 年度の 598 件へ、国際学術誌での採択論文数は、平成 21 年度の 2 件から平成 27 年度の 20 件へそれぞれ増加している。特に准教授・講師及び助教の研究論文発表数は、平成 22 年度の 225 件から平成 27 年度の 322 件へ増加している。

（現況分析結果）

○看護学部・看護学研究科における研究成果の活用

看護学部・看護学研究科において、「日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発」、「高度生殖医療を受けた妊婦の母親役割獲得を促す看護介入プログラムの開発と実用化」、「看護実践・教育のための評価システムの開発」等、国内外で研究成果が活用されている。（現況分析結果）

（2）研究実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

（判断理由）「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標

（1項目）が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○国際的に優れた先駆的・学際的プロジェクトへの支援の充実

中期目標（小項目）「学術研究の動向に即して、研究支援の充実、研究に集中できる環境の整備、部局を越えた学際的な研究を実施できる体制を整える。また、研究の質の向上を目指す。」について、国際的に優れた先駆的・学際的プロジェクトを推進するため、千葉大学 COE スタートアッププログラム、千葉大学次世代

研究育成プログラム、千葉大学 COE プログラム等の学内研究支援事業により、若手の研究者及びグループを支援している。これらの事業を検証し、平成 27 年度から大学の強み・特色となる分野の研究力を強化し、国際的卓越拠点形成を目的とする戦略的重点研究強化プログラム、次世代の研究の核となるグループを育成するリーディング研究育成プログラムに移行することにより、ハドロン宇宙科学分野等の国際的な研究グループやキラリティー物質科学分野等の複数の研究科を横断した学際的研究グループが創成されている。これらの取組により、高エネルギー宇宙ニュートリノの世界初の検出に成功するなどの成果がある。

(中期計画 2-2-1-1)

(特色ある点)

○共同利用・共同研究の推進

中期目標（小項目）「学術研究の動向に即して、研究支援の充実、研究に集中できる環境の整備、部局を越えた学際的な研究を実施できる体制を整える。また、研究の質の向上を目指す。」について、共同利用・共同研究拠点である環境リモートセンシング研究センター及び真菌医学研究センターにおいて、第 2 期中期目標期間に計 408 件の共同利用・共同研究を実施している。環境リモートセンシング研究センターでは、気象庁より提供されたひまわり 8 号の衛星データを公開しているほか、真菌医学研究センターでは、京都大学ウィルス研究所との共同研究により、感染に応答した自然免疫誘導において、ストレス顆粒と呼ばれる細胞内偽集団の形成が重要な役割を担うことを世界で初めて明らかにするなどの成果がある。（中期計画 2-2-1-4）

(III) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標（3項目）のすべてが「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 地域を志向した教育・研究に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「地域を志向した教育・研究に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○自治体・NPO等との連携による廃校を活用した地域研究拠点の運営

中期目標（小項目）「地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進する。」について、平成25年度に文部科学省の地（知）の拠点整備事業（COC）に「クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学」が採択され、コミュニティ再生・ケアセンターを中心に自治体・NPO等と連携の下、郊外型廃校を活用したサテライトキャンパス美浜を市民・教員・学生が連携する地域研究拠点として、地域の課題解決や活性化等の研究推進計画を立案、実施している。また、平成27年度から全学共通プログラム「コミュニティ再生ケア学」を実施し、地域・コミュニティに関する教養と地域再生の知識、実践力を備え、地域に貢献する人材育成を図っている。（中期計画3-1-1-1）

(2) 社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(3) 国際化に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「良好」と判定した2項目のうち1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

<特記すべき点>

(優れた点)

○留学生支援の拡充

中期目標（小項目）「国際的競争力ある大学を目指し、「留学生30万人計画」に資するため積極的に留学生を受入れ、活発な国際交流を展開して高等教育及び国際共同研究の拠点としての国際的責任を果たす。」について、平成22年度に留学生に対するワンストップサービスを実現するインターナショナル・サポートデスク（ISD）を設置しているほか、留学生に対し、グローバル教育プログラムによる学生の受入、レベル別日本語教育等の各種取組により、平成27年度に日本留学アワーズの東日本地区国公立大学部門賞を受賞している。（中期計画3-3-1-1）

○スーパーグローバル大学創成支援事業の推進

中期目標（小項目）「徹底した「大学改革」と「国際化」を全学的に断行することで国際通用性を高め、ひいては国際競争力を強化するとともに、これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引するための取組を進める。」について、平成26年度のスーパーグローバル大学創成支援の採択により、千葉大学が参画している国立六大学連携コンソーシアム国際連携機構では ASEAN 大学ネットワーク（AUN）と包括交流協定を締結し、大学連合間で交流している。さらに、日本人学生と留学生の共同学習プログラム「グローバル・スタディ・プログラム」として新たに2つのプログラムを開発するなどの取組により、日本学生支援機構の協定等に基づく日本人学生留学状況調査において、学生海外派遣数は、全国の国立大学の中で平成23年度から4年連続1位となっている。（中期計画3-3-2-1）

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）	中期目標（中項目）	判定	特記すべき点
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標	① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね 良好	
	学士課程教育においては、自己を知り、他人を思いやる心を持ち、問題の本質に迫ることのできる人材、グローバルな視野を持ち世界をリードする人材、サステイナブル社会形成に貢献できる人材の育成を目指す。	おおむね 良好	
	1-1-1-1 全学協力のもとに質の高い普遍教育科目及び全学共通基礎科目カリキュラムを編成、実施し、教養教育と専門教育との円滑な接続を行う。	良好	
	1-1-1-2 学士としての目標に応じた基盤的能力、専門中核学力を獲得し、高度な専門的知識・技能を修め、創造的思考力を高めることができる教育課程を提供する。	おおむね 良好	
	1-1-1-3 倫理観、コミュニケーション能力や問題解決能力を養う科目を設定し、汎用的な基礎力の向上に資する教育活動を実施する。	おおむね 良好	
	1-1-1-4 外国語教育を通じて、外国語と外国文化への理解を涵養する機会を保証するとともに、バランスのとれた外国語コミュニケーション能力の育成を重視し、専門性に配慮した適切な教育活動を実施する。	良好	優れた点
	大学院においては、国際的水準を備えた創造性豊かな研究者や高い専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成を目指す。	おおむね 良好	
	1-1-2-1 修士課程（博士前期課程）では、高度専門職業人としての基盤的な学力を充実させるとともに、さらにその基礎の上に、幅広い視野と高度な専門力を修得できる教育課程を提供する。	おおむね 良好	
	1-1-2-2 博士課程（博士後期課程）では、優れた研究者をはじめとする社会の指導的立場に立つ人材として自立できる教育課程を提供するとともに、独自性を発揮して研究に取り組むことができる体制を整備する。	おおむね 良好	
	1-1-2-3 専門職学位課程では、高度な専門知識と柔軟な思考力をもった人間性豊かな人材を養成する。	おおむね 良好	
	1-1-2-4 大学院教育の国際化に対応するために、英語による教育コースの設置、英語等による授業の実施、海外の高等教育機関との教育交流の推進等、必要な措置を実施する。	良好	
	1-1-2-5 各研究科（学府）は幅広い視野及び高度な専門能力等を早期に修得した者、あるいは社会の多様な分野で研究経験を積んだ者等に対し、早期修了制度を適切に運用する。	おおむね 良好	
	学生がより高い学習成果を獲得できるよう、学位授与の方針を明確にし、体系的な教育課程の編成を行い、教育の質の保証を行う。	おおむね 良好	
	1-1-3-1 各学部、研究科（学府）は、卒業（修了）生の社会におけるそれぞれの役割を明確化し、それに基づいた学士、修士、博士及び専門職の学位授与の方針を公表し、保証した能力の検証を行う。	おおむね 良好	

(注)計画番号の前に○印がある中期計画は、戦略性が高く意欲的な目標・計画を示す。

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点		
中期目標（中項目）						
中期目標（小項目）						
計画番号	中期計画					
	1-1-3-2	各学部、研究科（学府）は、学科・専攻等、科目群、科目それぞれの段階で、明確な学習到達目標を掲げた体系的な教育課程を編成する。	おおむね 良好			
	1-1-3-3	学士課程においては、修得単位数、GPA等を利用して包括的な中間評価を行い、その結果を活用してきめ細かな学生指導、学生支援を進める。	おおむね 良好			
	1-1-3-4	学習成果を多面的に評価するとともに、国際的にも通用し得る成績評価基準を策定し、厳格に適用する。	おおむね 良好			
	1-1-3-5	学士課程と修士課程（博士前期課程）の接続、学部間、研究科（学府）間の連携、他の国公私立大学との連携の強化等により、教育カリキュラムの効率化・高度化を進める。	良好			
	入学に際して習得しておくべき内容・水準等を含む入学者受入れの方針を関係者に対して明確に示し、これに相応しい入学者選抜方法に改善することにより、意欲的で多様な人材を受入れる。			良好		
	1-1-4-1	各学部、研究科（学府）はその教育目標に基づき入学者受入れの方針の整備改善を行い、それを関係者に周知するとともに適切な入試方法の確立に向け見直しを進める。	良好			
	1-1-4-2	高等学校等において学修活動に関する情報提供や出張授業等の広報活動を行うとともに、高大連携企画事業の実施等により、志願者の開拓を行い、意欲的で多様な人材を確保する。	良好			
	1-1-4-3	「飛び入学」制度の充実と飛び入学生教育の一層の高度化を進める。特に、高校3年生を対象とした9月入学（秋飛び入学）の導入を通じて多様な人材の受入れに努める。また、各学部、研究科（学府）では、早期卒業制度の整備、大学院への早期入学制度を拡充する。	良好	特色ある点		
	1-1-4-4	各研究科（学府）において、秋季入学者が学びやすい制度の確立や秋季入学に関する広報の充実を行うことにより、平成27年度までに60名以上の大学院秋季入学者を確保する。	良好			
	学生が能動的に参加する授業を充実させるとともに、情報化技術を応用した教育方法の開発と充実を目指す。			おおむね 良好		
○	1-1-5-1	アクティブラーニングの手法を取り入れた科目やICTを活用した教育方法の量的・質的改善、TAの充実等を通して、学習の双方向性を確保し、主体的な学びに裏打ちされた情報発信能力を涵養する。	良好	特色ある点		
○	1-1-5-2	学生が適切な履修計画を立てられるような教育課程上の工夫や授業時間外に学生がなすべき課題を明示し、その活動に対してフィードバックを与えるような授業運営上の工夫等により、単位制度の実質化を進める。	おおむね 良好			
② 教育の実施体制等に関する目標			おおむね 良好			
	教育の実施及び支援を効果的に行うための柔軟な教員配置の体制を整備し、教育の質を向上させる。			良好		
	1-2-1-1	普遍教育、学際的教育プログラムの充実のために、柔軟な教員配置を推進する。	良好			

中期目標（大項目）				判定	特記すべき点		
中期目標（中項目）							
中期目標（小項目）							
計画番号	中期計画						
	1-2-1-2	国内外の各種研究機関、高等教育機関等との交流を深め、連携講座制度や客員教員、特任教員等の制度を活用し、共同教育を推進する。また、大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センターにおいては、我が国の看護学教育に関する全国的な拠点として、看護学における教職員の組織的な研修及び共同利用を積極的に推進する。		良好			
	教育環境を整備、充実し、教育の効果を高めるとともに、快適な学習環境の実現を目指す。また、多様な学生のニーズに配慮し、学生生活におけるアメニティの充実を目指す。			おおむね 良好			
	1-2-2-1	附属図書館は、学習上必要な資料の体系的整備を行うとともに、教員と連携して授業に密着した情報提供機能を拡充、強化する。また、ICT環境を整備し、教育環境を充実させる。		おおむね 良好			
	1-2-2-2	自主的学習、情報交換及び課外活動の場として学生が利用できるスペース及び学生寮等の施設を充実させる。		良好	優れた点		
	カリキュラムや教育方法の改善、教員の職能開発を推進し、教育の継続的改善を目指す。			おおむね 良好			
	1-2-3-1	全学を対象にした教育に関する調査を実施し、これに基づいてカリキュラムや教育方法の改善、教員の教育力向上に関する企画推進を行う。		おおむね 良好			
	1-2-3-2	教育プロセスや成果の評価に基づいて、カリキュラムや教育方法の検証と改善を継続的に行うシステムを、各学部・研究科（学府）において構築する。		良好	優れた点		
	1-2-3-3	FD推進体制を整備し、全学的に、また各部局で、調査結果やニーズに基づいたFDプログラムを開発、実施し、教員の教育力を高めるとともに、TAへの研修を実施する等、教育改善の実質化を推進する。		おおむね 良好			
(3) 学生への支援に関する目標				良好			
	学生の修学、生活、進路等に関わる相談、支援をきめ細かに実施できる体制を整え、健やかで豊かな学生生活の実現を目指す。			おおむね 良好			
	1-3-1-1	学生の修学、生活、進路等に関するニーズを的確に把握し、相談、支援をきめ細かに実施できる体制を整えるとともに、特に心身の健康等にわたる相談支援体制を充実させる。		おおむね 良好			
	1-3-1-2	障がいを持つ学生が必要とする支援ニーズを把握し、支援者の確保、施設・機器の整備等を進め、学习・生活に関する支援を充実させる。		おおむね 良好			
	1-3-1-3	多くの学生が海外研修等を体験できるよう、多様な海外派遣プランを提供するとともに、参加学生への支援を行う。		非常に 優れている	優れた点		
	1-3-1-4	学習相談や大学行事等を担当するステューデント・アシスタント（SA）として優れた学生を採用し、学生への経済的支援を充実させるとともに、大学院生については、TA、RAの制度等を有効に活用した経済的支援を継続的に実施する。		おおむね 良好			

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点		
中期目標（中項目）					
中期目標（小項目）					
計画番号	中期計画				
学業と実践との調和ある教育により、学生の高い就業意識を育成するとともに、就職相談、就職指導等の支援を推進し、学生の主体的な進路選択によるキャリア設計を目指す。		良好			
1-3-2-1	学生の主体的な進路選択を支援するため、進路指導、就職ガイダンス、就職相談、就職試験対策等の内容を充実させる。さらに資格試験等について情報を提供し、学生の志望を支援する体制を構築する。	良好			
1-3-2-2	教育の様々な場面にキャリア教育を導入するとともにインナーシップを推進し、学生の自己認識、社会認識の深化を促す。	良好	優れた点		
留学生の生活と学習を支援するために、施設整備を進め、相談体制を整備するとともに、支援内容を充実させる。		良好			
1-3-3-1	留学生に対する日本語教育を強化するとともに、留学生の生活、学習、進学、就職に関する相談支援体制を充実させる。	良好			
1-3-3-2	留学生への学習相談、国際化推進活動等担当のスチューデント・アシスタント（SA）として優れた留学生を採用し、当該学生への経済的支援を行う。	おおむね 良好			
1-3-3-3	留学生のための施設整備を進め、学習環境、生活環境、健康管理等の面できめ細かなサービスを提供するとともに、留学生と日本人学生間の相互文化理解及び国際交流を進展させる。	良好			
(II) 研究に関する目標		良好			
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標		良好			
基礎並びに応用研究の推進強化を行い、国際的に高く評価される成果を生み出すとともに、国内外において牽引役としての役割を果たす。特色ある分野においては、国際的に魅力ある卓越した研究拠点形成を目指す。また、得られた研究成果を体系的に国内外に発信し、成果の社会還元を積極的に行う。		良好			
2-1-1-1	特色ある卓越した世界最高水準の研究拠点形成を目指すとともに、全学的支援のもとに各研究科（研究院）等において中核的研究拠点を整備する。	良好	優れた点		
2-1-1-2	長期的な視点に立ったシーズ研究や学際的融合研究を充実、発展させる。また、産学官連携による共同研究を積極的に推進して、ニーズに対応した研究を充実、発展させ、社会に貢献する。	良好			
2-1-1-3	「知の拠点」として、学会発表、論文発表、プレスリリース、ウェブサイト等による公開や、各教員の研究成果等をデータベース化し、研究活動の実態と成果を広く社会にわかりやすく発信する体制を整備する。	おおむね 良好			
2-1-1-4	全学的な研究情報の発信（オープン・リサーチ等）、コンサルティング及び特許出願等を推進するとともに、TLOを活用した技術移転、大学発ベンチャーの育成等を含め、産学官連携による研究活動を推進する。	良好			

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点		
中期目標（中項目）					
中期目標（小項目）					
計画番号	中期計画				
② 研究実施体制等に関する目標	学術研究の動向に即して、研究支援の充実、研究に集中できる環境の整備、部局を越えた学際的な研究を実施できる体制を整える。また、研究の質の向上を目指す。	良好			
2-2-1-1	各研究科（研究院）あるいは複数の研究科（研究院）を基軸とした先駆的・学際的なプロジェクト研究の遂行を支援する。	良好	優れた点		
2-2-1-2	研究設備の整備・高度化、優れた研究に対する支援を行うとともに、サバティカル研修等によって教員の研究活性を高める。	良好			
2-2-1-3	各部局は論文発表数、論文の被引用件数、招待講演数、海外共同研究数、受賞件数等、各研究分野の特質に適した研究成果の点検・評価を通して、研究水準を向上させる。	おおむね 良好			
2-2-1-4	共同利用・共同研究拠点（環境リモートセンシング研究センター、真菌医学研究センター）及び社会精神保健教育研究センターにおいては、我が国の各研究領域における中核的研究拠点として共同利用・共同研究を積極的に推進する。さらに学内共同研究施設等の研究の質の向上に資するプログラムを推進する。	良好	特色ある点		
(III) その他の目標		良好			
① 地域を志向した教育・研究に関する目標	地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進する。	良好			
3-1-1-1	「地域のための大学」として、全学的な教育カリキュラム・教育組織の改革を行い学生の地域に関する知識・理解を深めるとともに、地域の課題（ニーズ）と大学の資源（シーズ）の効果的なマッチングによる地域の課題解決、更には地域社会と大学が協働して課題を共有しそれを踏まえた地域振興策の立案・実施まで視野に入れた取組を進める。	良好	特色ある点		
② 社会との連携や社会貢献に関する目標	先端的教育、研究及び医療の中核機関として、地域社会と連携、協力して、産業、学術、文化及び福祉の一層の発展向上に貢献する。	良好			
3-2-1-1	千葉県、千葉市や他の地方公共団体、NPO、NGO等と連携、協力し、生涯学習の支援、高度職業人教育を目指す各種研修会、小・中・高校生対象教育プログラム等を企画、実施する。	おおむね 良好			
3-2-1-2	特色ある研究成果と知的専門性を生かし、他の教育機関等と連携しながら、地域産業の振興を目指したプロジェクトの育成及び地域との連携研究プロジェクトを企画し、科学的・文化的研究成果を社会に積極的に還元して地域に貢献する。	良好			
3-2-1-3	千葉県、千葉市や他の地方公共団体、地域医療機関等と様々な形態で連携、協力し、地域における保健・医療・福祉サービスの向上や環境・エネルギー分野等への取り組みに積極的に協力する。	良好			

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点		
中期目標（中項目）					
中期目標（小項目）					
計画番号	中期計画				
③ 国際化に関する目標		良好			
国際的競争力ある大学を目指し、「留学生30万人計画」に資するため積極的に留学生を受入れ、活発な国際交流を展開して高等教育及び国際共同研究の拠点としての国際的責任を果たす。		良好			
3-3-1-1	留学生の積極的な受入れを進めるため、広報の推進、入試システムの改善、英語による教育コースや日本語教育等の教育体制の整備、生活・就職支援の充実、留学生宿舎の改善等の受入れ体制を整備する。	良好	優れた点		
3-3-1-2	外国人教員の積極的採用、国際交流協定の締結、海外からの研究者受入れ、国際共同研究の積極的推進、海外拠点の整備、本学の学生及び教員の派遣等により国際化を推進する。	良好			
3-3-1-3	海外の研究機関との相互連携を図る取り組みを支援し、国際学術集会及び国際シンポジウム等の開催を推奨し、財政的支援を行う。また、海外での国際学会における教員及び大学院生の研究発表を推奨し、経済的支援を実施する。	良好			
徹底した「大学改革」と「国際化」を全学的に断行することで国際通用性を高め、ひいては国際競争力を強化するとともに、これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引するための取組を進め る。		良好			
○ 3-3-2-1	スーパーグローバル大学創成支援「グローバル千葉大学の新生ーRisingChibaUniversityー」事業の目標達成に向け、学長のリーダーシップのもと、学修制度の改革として博士後期課程を除く授業科目についてナンバリングの100%導入、プログラム改革として「国際日本学」の必修化によるカリキュラムの見直し、グローバル・ネットワーク改革としてアセアン大学ネットワーク（AUN）との連携推進を行い、国際的・実践的な教育として日本人学生と留学生の共同学習プログラム（グローバル・スタディ・プログラム：現行3）を新たに2プログラム開発するとともに、入学定員・教員等の学内資源の再配分によるガバナンス改革のもと新学部の設置準備を行う。	良好	優れた点		

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

(1)	主体的な学びを通じて課題探求能力を備えた「考える学生」を育成することを目指した計画を進めており、平成23年度にアクティブ・ラーニング・スペース、ティーチング・ハブ、コンテンツ・ラボの3つの機能を備えたアカデミック・リンク・センターを設置し、すべての学部・研究科（学府）でアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実施している。学生アンケートでは、1日の授業外学習時間が3時間以上と答えた学生が平成20年度の7.2%から平成24年度の11.6%へ増加している。
(2)	グローバル千葉大学の新生－Rising Chiba University－構想の実現に向け、授業科目ナンバリングの導入、「国際日本学」の必修化によるカリキュラムの見直し、ASEAN大学ネットワーク（AUN）との連携推進による共同学習プログラムの開発を行うとともに、入学定員・教員等の学内資源の再配分による新学部の設置準備を行う計画を進めている。千葉大学が参画している国立六大学連携コンソーシアム国際連携機構ではAUNと包括交流協定を締結し、大学連合間で交流しているほか、日本人学生と留学生の共同学習プログラム「グローバル・スタディ・プログラム」として新たに2つのプログラムを開発している。